

「今を生きる～酒井雄哉の生き方に学ぶ～」

「大阿闍梨の由来」

今日は、「今を生きる」というテーマで、酒井雄哉さんの生き方から考えたいと思います。「今を生きる」というと、とても大きな言葉に感じるかもしれません。でも、今日話す「今とは」は、「この時」という意味だと思って、一緒に考えてください。

酒井雄哉さんは、天台宗の僧侶で、大阿闍梨という僧侶の高い位を持つ人です。「阿闍梨」という言葉で思い出す3年生がたくさんいるのではないのでしょうか。修学旅行から「阿闍梨餅」をお土産に買った人もたくさんいるのではないのでしょうか。その阿闍梨です。

酒井さんは、比叡山延暦寺の大僧正です。なぜ、酒井さんに「大阿闍梨」という称号が与えられたのでしょうか。それは、比叡山の千日回峰行という修行を一回行くと「阿闍梨」という、「他の僧侶に仏教の教えを指導する僧侶という意味」の尊称が与えられます。酒井さんは、すでに高齢だったので周囲は止めたそうですが、この想像を絶する厳しい修行を2度行ったため「大阿闍梨」の尊称を受けました。この修行2度も行った僧侶は、世界にたった3人しかいないのです。

「千日回峰行とは」

ここで、千日回峰行という修行について簡単に紹介します。比叡山を代表する修行の一つで、1000日をかけて、比叡山や京都市内を歩いたり、小さな堂に入り、ひたすらお経を詠んで祈願する修行です。平安時代から始まった修行方法です。

まず、比叡山に祭られる仏を回って拝み、三百数か所で定められたお経を唱えながら、毎日30km歩くことを5年間で700日間続けます。決して一日も休むことは許されません。雨の日も、雪の日も毎日です。続けて、「堂入り」と言って、比叡山の中にある明王堂に入り、9日間「断食（食べない）・断水（飲まない）・不眠（寝ない）・不臥（横にならない）」で10万遍の経を唱えます。まさに、死を覚悟しての修行です。これが終わると、6年目には、京都にある禅寺まで毎日60キロを100日歩き続けます。7年目は、京都市内の寺巡る、毎日84キロ歩くことを100日続けます。最後の100日は、1年目と同じ30キロの比叡山を歩く修行になります。なんと千日の間で歩いた距離は、4万キロ。これは地球一周に相当するものです。「DVD 千日回峰行」の視聴

この映像は、1回目の千日回峰行を達成した54歳の時のものですが、なんと1回目が終わった半年後、再び修行を開始し、61歳で2回の1,000日回峰行を成し遂げます。本当にすごいです。

「酒井さんの生い立ち」

では、酒井さんの過去はどうだったのでしょうか。大阪市で生まれました。小さいころは、父親は、日中戦争に動員されて大けがをしたり、米屋をやっていましたが、米相場に手をだし失業したりするなど、決して苦勞のない家庭とは言えない中で育ちました。旧制中学卒業後、慶應義塾大学の夜間商業高校に入学しました。「お世辞でも勉強は得意ではなく、むしろ、落第生だった」と酒井さんは語っています。高校の先生の「卒業

させてやりたいのだが、いくら逆立ちしたって点数が足りない。だけど軍隊志願すれば、自動的に卒業できる制度ができたからどうだ」という言葉からもわかります。その言葉のとおり熊本県予科練に入隊しました。その後、鹿児島県の飛行場に移ります。特攻隊員になりましたが、幸い終戦を迎えることになります。

戦後は、ラーメン屋を開業しますが火事で廃業、株売買の代理店を始めるが大暴落で1億円の負債を抱え借金取りに追われ、そば屋の店員、菓子店のセールスマンなど職を転々としてます。33歳のとき結婚するが、結婚して間もなく奥様が亡くなるという悲劇を経験し、それ以後、抜け殻のような生活を送りました。

「比叡山の修行のきっかけ ～人生の出会いが突然やってくる～」

たまたま、東京から弟が酒井さんのところへ遊びに出かけてきます。その時比叡山を案内したそうです。妙にたくさん信者が集まっていた。9日間の「堂入り」の修行を終えた白装束の阿闍梨が現れました。その姿を見た酒井さんは「その行者の姿を、かたずをのんで見守りました。その時の様子を、「こんな世界があるのか・・・と大きな衝撃を受けた。山を下りてからも、その行者の姿が心に焼き付いて離れない、世の中には、ただひたすらに行に打ち込む人生がある。ひるがえって自分はどうか、ただふらふら生きているだけじゃないか。考えた考えた。気が付けば足が比叡山に向いていた。夜中に家をそっと抜け出し歩き続け、翌日の午後比叡山に到着した」と語っています。

「酒井さんの姿から」

酒井さんは、千日回峰行を通して、たくさんのことを語っています。その中で私自身が心を打たれたことを2つ紹介します。

一つ目は、「今を一生懸命生きる」ということです。

酒井さんは、「千日回峰行が一度終わって、また新しいことを始めるとすぐに「ボロ」が出ちゃうんです。「らしく」見せたって、背伸びしたって、焦ったって、慌てたって、本来の自分が出ちゃうんです。ならば「これだ」と思ったことを、繰り返しやるのがいいんじゃないかなと思うんだよ。」「繰り返しやる中で、何にも変わらないように見えても、自分自身はいつも新しくなっているんだよね」「だから今を大切に、今を一生懸命やるんだよ。それを繰り返せばいいんだと思う」「三日坊主」という言葉があるけど、まずは3日辛抱してみたらいい。辛いのは三日間。4日目まで行けたらそのままずっといけるんじゃないかな。千日間の厳しい修行を一日も休むことなく続けた酒井さんが、今を精一杯生き、それを続けることで、やがて何かが見えてくることを教えている言葉だと思いました。

二つ目は、「学ぶことと実践することの両立が大切」ということです。

孔子が、「知ることと実践することは両輪のごとく」とおっしゃっているけど、両方の車輪がないと車は傾いむいちゃいます。私は、厳しい修行を行った。もしも、若いときに勉強もしていたら、相当に優れた人間ができたんじゃないだろうか」と時々悔しく思うことがある。やっぱり学ぶべきことは学ばなきゃダメだと。それも、自分でこなせるような学び方をしないといけないんだなあ」酒井さんは、厳しい修行の中で、多くのことを感じ、発見しました。でも、「知識と実践とつながる」と、もっと早く発見できたり、早く気付くことができたことがあるのではないかと強く思います。

「まとめ」

二度にわたる千日回峰行を成し遂げた酒井雄さいさんですが、3年前に87歳でこの世を去られました。今でも、酒井雄さんが私たちに伝えてくださった言葉は、多くの書籍や多くの人の心に残っています。

二学期もあと二か月余り、皆さんも「今を生きるという意味を考えながら、今を過ごしてほしいと思います。終わります。